

超 望 遠

「嘘を描くな」という故豊年画伯の教えに従って、動物の観察用に $f = 1000\text{mm}$ のレンズを求めた。しかし、私の技術では三脚とレリーズなしには、手ブレが大きくピンボケとなる。

九州支部の資料や成績書は、専技や研究員の努力と協力を得て作成されている。その原稿締切期限に余裕をもって送って頂く専技がおられる。形式も内容も完璧で、編集者としては誠に有難い。この専技の“そのうちに”でなく、“今直ちに”の業務対応には、心から敬服している。

庭が広いと管理が大変で、私も永い間、除草は除草剤に頼っていた。1,200 m^2 が3時間位で済み、時期にもよるが、2～3か月はもつ。しかし、今では、広場と苔や芝生は除草剤、植木の間は手作業にしている。その手作業は、宮崎安貞の上農のように“草を見ずして”とまではゆかないが、“草を見たら直ちに”削っている。合理的ではあるが、除草剤に比べると除草回数が2～3倍になる。この手作業は、健康維持の運動としてやっているのである。

私は余程のことがない限り自動車に乗らず、かなりの距離でも自転車で用を済ませている。晴雨両用自転車の出現をさえ期待している。これも運動と考えてである。

有難いことに、除草や自転車を単なる掃除や交通手段と考えるとつらいが、運動と思うと結構楽しい。また、仕事は迫る立場になると、成果は向上し、神経の消耗も少ない。超望遠のカメラの固定が重要であるように、何事も開始にあたって、まず理念構築の必要性を痛感する。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事
九州支部 長 井上利志栄〕

目 次 (第15巻第9号)

世界の畑作雑草と除草体系

(2) 世界の地域別農業と雑草(北ア

メリカ・ラテンアメリカ)……………2

＜宇都宮大学 竹松哲夫・竹内安智＞

1. 北アメリカ(アングロアメリ

カ)……………2

2. ラテンアメリカ……………7

スリランカにおける稲作と水田雑草

防除研究の近況……………15

＜東北農業試験場 奈良正雄＞

1. はじめに……………15

2. 稲作の概況……………15

3. 水田雑草防除研究の紹介……………19

4. おわりに……………27

外国文献抄録

ウラシル系の除草剤とその分解……………28

除草剤使用面積一覧……………31

新登録除草剤一覧……………35

新登録生育調節剤一覧……………40

表紙の写真は、カタバミの種子表皮細胞を走査電子顕微鏡で撮影したもの、亀甲突起型、4000倍。

〔写真提供者；笠原安夫氏〕